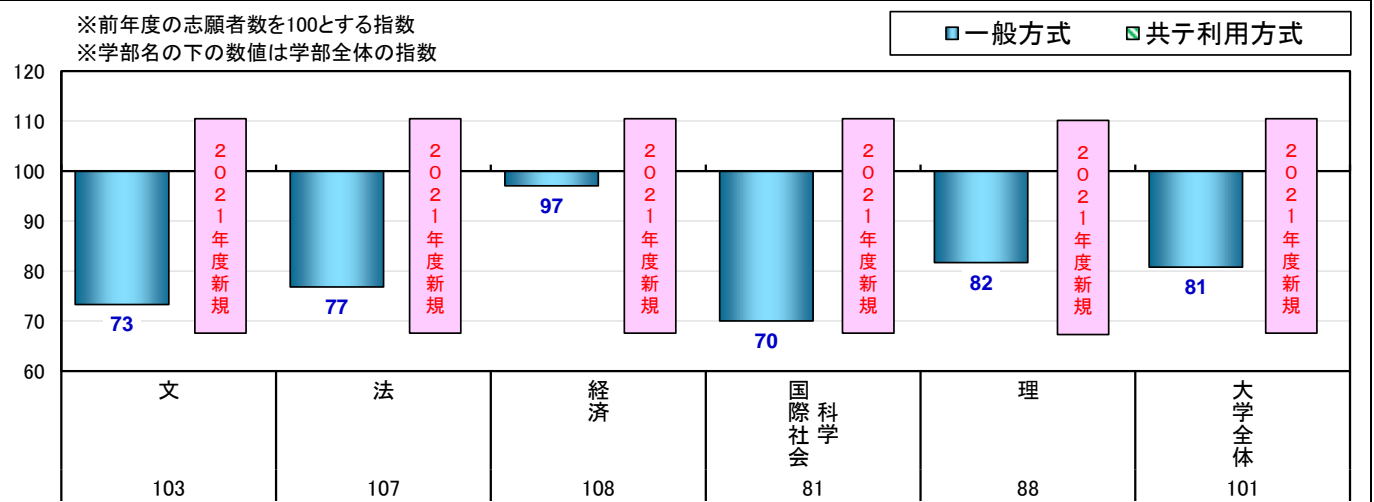


2021年度入試状況分析【私立大】

学習院大：大学全体ではやや増加し、3年ぶりに増加

一般：-3,257人 共テ：+3,433人



入試変更点	選抜方法：新規…文(英語英米文化)、(史)、(哲)、(ドイツ語圏文化)、(フランス語圏文化)〈共テ・3教科型〉(教育)〈共テ・5教科型〉 法〈共テ・3教科型〉 経済(経済)〈共テ・4科目型〉、〈共テ・6科目型〉 国際社会科学(国際社会科学)〈共テ・4科目型〉 理(化学)〈共テ・4教科6科目型〉 中止(コロナ禍のため2021年度のみ)…国際社会科学(国際社会科学)〈プラス〉 廃止…法〈プラス〉、理(化学)〈プラス〉 募集人員：文(英語英米文化)〈コア〉…80人→70人、(史)〈コア〉…60人→55人、 (哲)〈コア〉…60人→55人、(フランス語圏文化)〈コア〉…40人→35人、 (教育)〈コア〉…30人→25人 経済(経済)〈コア〉…150人→130人 国際社会科学(国際社会科学)〈コア〉…80人→95人
-------	--

COMMENT ※()内の数値は志願者数の前年度対比指数

大学全体では、176人(101)の微増で3年ぶりに増加。方式別では、新規実施の共通テスト利用方式の志願者数は3,433人だったが、一般方式は3,257人(81)の大幅減少。この結果、共通テスト利用方式の導入にもかかわらず、大学全体では微増に留まった。なお、共通テスト利用方式の志願倍率は、募集人員が少ないことから最も低い経済(経済)〈6科目〉の19.2倍から最も高い文(史学)の85.4倍までいずれの募集単位も高倍率となった。

<一般方式>
 ○文(73)は、〈コア〉の募集人員が30人減ったことも影響し、大幅減少で3年ぶりに減少。学科別では、全ての学科で減少。特に、(心理)(64)、(フランス語圏文化)(69)、(史学)(69)の大幅減少が目立った。
 ○法(77)は、大幅減少で3年連続減少。前年度志願者数が362人だった〈プラス〉の廃止も影響した。
 ○経済(97)は、やや減少で3年連続減少。学科・方式別では、(経営)〈コア〉(102)は2018年度の〈コア〉〈プラス〉の2方式導入後初めて増加したが、(経営)〈プラス〉(93)はやや減少で3年連続減少。(経済)〈コア〉(95)、経済〈プラス〉(86)はともに3年連続減少。
 ○国際社会科学(70)は、大幅減少で2年連続減少。英語外部試験の成績提出が必要だった〈プラス〉は、コロナ禍で実施中止となり、その募集人員15人は、〈コア〉に加えられたが、〈コア〉のみでも(93)のやや減少。
 ○理(82)は、大幅減少で2年連続減少。学科・方式別では、(生命科学)〈プラス〉(135)が2年連続大幅増加、(物理)〈プラス〉(113)は前年度半減以上の減少の反動で増加。一方で、(化学)〈コア〉(75)2年連続大幅減少、(数学)〈コア〉(77)、数学〈プラス〉(79)の大幅減少が目立った。

<共通テスト利用方式>
 ○文は、(日本語日本文学)(心理)を除く学科で実施。学部全体で募集人員29人、志願者数1,570人で、志願倍率は54.1倍。
 ○法は、学科別では(政治)が募集人員15人、志願者数434人で、志願倍率は28.9倍。(法)が募集人員15人、志願者数637人で志願倍率は42.5倍。
 ○経済は、(経済)のみ実施。方式別では〈4科目〉は募集人員10人、志願者数273人で志願倍率27.3倍。〈6科目〉は募集人員10人、志願者数192人で志願倍率19.2倍。
 ○国際社会科学は、募集人員5人、志願者数196人で、志願倍率は39.2倍。
 ○理は、(化学)のみ実施。募集人員5人、志願者数131人で26.2倍。